

ヨーン・ボルプ (Jørn Borup、デンマーク・オーフス大) 准教授講演

「デンマーク宗教学の現状——宗教現象学からデコロニアル批評まで」

Phenomenology of religion, decolonial critique and the study of religion in Denmark

日時 5月11日(土) 16:00-18:30 法文2号館宗教学研究室(ハイブリッド開催)

主催: 科研(基盤B)「宗教現象学と国際宗教学会の関係史——マクロ宗教学の再構築に向けて」

(研究代表者: 藤原)

プロテスタント圏にある北欧諸国は、IAHR(国際宗教学宗教史会)とも歴史的に関係が深く、宗教学が盛んです。認知科学的宗教学を早くから導入する一方で、大学の学部教育で、「宗教現象学」という名称の科目を開講し続けている、世界でも稀な例です。

研究会では、そのような背景をもつデンマーク宗教学(特に大学の宗教学カリキュラム)の現状と、ボルプ先生の近著(*Decolonising the Study of Religion: Who Owns Buddhism?* 2023)の内容をお話いただきました。

デコロニアル批評を受けとめつつ、それでも西洋の白人宗教学者が仏教を研究するにはどうするかについて建設的な提案をされました。

質疑応答の時間には、研究室の院生・学生から熱心な質問が相次ぎ、活発な議論が行われました。

